

大高同窓会報

発行

千葉県立大多喜高等学校同窓会

千葉県夷隅郡大多喜町大多喜481
〒298-0216 TEL 0470-82-2621
URL
<http://www.chiba-c.ed.jp/otaki-h/>
E-mail otaki-h@chiba-c.ed.jp

印刷 (株) サラト
姫路市北条宮の町172番地
TEL 079-284-1380



会長あいさつ

同窓会長 猿田 寿男 (昭42高)

大多喜高等学校同窓会会員の皆様におかれましては、益々ご清祥、ご活躍のこととお慶び申し上げます。

平成26年度総会において山口登前会長の後を受け同窓会長の任を拝命し、早や2年目を迎えました。会員の皆様方におかれましては、日頃より母校の発展のため各方面で尽力されるとともに、同窓会の諸活動にご理解ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。会長に就任以来、私も入学式や卒業式に出席させていただきましたが、久しぶりの母校への訪問にとても懐かしい気持ちになりました。新入生の皆さんは初々しさのなかにもこれから迎える大多喜高校での学校生活に決意を新たにされた表情が伺え、卒業生の皆さんは3年間で心身ともに成長された姿を見せていただき、それぞれ新しい社会でのスタートを祝し、メッセージを贈らせていただきました。

また、同窓会各支部の総会等にもお招きいただき、ご挨拶の機会をいただくとともに、温かい励ましのお言葉を頂戴し、誌面をお借りしまして厚く御礼申し上げます。

現在、在校生の皆さんは日々の勉学に力を注がれる一方で、部活動においても多くの生徒が加入し、例年各部において好成績を収められるなど、文武両道のご活躍をされています。これは同窓生として、また地域住民としても非常に誇り高く、今後一層のご活躍を期待いたすところでございます。

創立116年を数える歴史と伝統ある大多喜高校の生徒として自信と誇りを持ち、それぞれの夢や目標の実現に向け実りある学校生活となりますことを願っております。

この度の公職選挙法の改正により選挙年齢が18歳に引き下げられ、既に先の参議院議員選挙よりいち早く有権者となった生徒もおられます。これは社会への大きな役割を担うことであり、こうした中、先生方におかれましても、授業や部活動のほか生徒への幅広い指導が求められてくるかと思いますが、指導力に優れ熱意のある先生方のお力添えを切にお願い申し上げます。

また、私も現在、勝浦市の市長を務めておりますが、この勝浦市・夷隅郡地域においても、少子高齢化や人口減少など様々な課題が山積しております。

昨年策定した「地方創生総合戦略」に基づき、若者の雇用の場の確保に向けた空き校舎となる学校跡地やレジャー施設の跡地などを活用した企業の誘致推進をはじめ、豊かな自然環境を活かした移住・定住などの交流人口の拡大に向けた取り組みにも力を入れるとともに、子育て世代が安心して子どもを産み育てられるような環境づくりも目指しています。迫り来る人口の減少は母校大多喜高校の存続にも直結する問題であり、地域一体となった取組みが欠かせません。各界でご活躍されている同窓生の皆様方や地元を離れて暮らしている同窓生の皆様方にも地元夷隅郡市地域の活性化のため更なるご協力をいま一度お願い申し上げます。

結びに、平野校長先生をはじめ、諸先生方への敬意と感謝を申し上げますとともに、母校の一層の発展ならびに皆様のご健勝とご多幸、ご活躍を祈念いたしまして挨拶とさせていただきます。



『思うは招く』 —ある講演で感じたこと—

校長 平野 明

輝かしい伝統と歴史を誇る大高にお世話になって一年が過ぎました。同窓会の皆様には、日ごろから本校の教育活動に対し、御理解と御協力を賜り、厚くお礼申し上げます。また、生徒募集に関して様々な方から御心配や激励のお言葉をいただき、このことに関しても重ねてお礼申し上げます。

生徒募集に関しては、学校あげての生徒の「出口保証」に向けた取組が不可欠であり、入学を果たした生徒一人ひとりが、学習だけではなく部活動をはじめとした様々な教育活動に積極的に参加し、充実した高校生活を送れ、その先に、納得のいく進路決定がなされる必要があります。世の中はめまぐるしく変化を続け、その変化についていくには、基本的な学力と様々な課題に向き合い、他者と協働して課題解決ができる資質能力が必要とされます。大高には、まさにその資質

能力を高めるための環境が整っていると自負しています。勉強だけではない、かといって部活動だけでもない絶妙のバランスが取れた高校生活を送れる学校であると感じています。

今年度は、地元大多喜町から絶大な支援をいただき、リクルート社の提供する学びシステム「スタディサプリ」を学年進行で導入することといたしました。「スタディサプリ」は、インターネットを利用できる環境があれば、自宅に限らず、通学の電車やバスの中、あるいは学校においても、3,000講座を超える講義を、目的と自身の学力に合わせ自由に視聴できるというものです。かつては、大手予備校がサテライト方式の講義配信システムを売りにしていた時代がありましたが、今は、ウェブ上で普通に視聴できる時代となりました。今年度から学年進行で導入を進め、自学自習のみならず、授業等でも積極的に活用しながら定着を図り、先に述べた「出口保証」がよりよい形で実を結ぶようにしたいと考え

ています。そうすることで、地域からの本校に対する期待感が高まり、ひいては、生徒募集に好影響を及ぼすと考えています。

さて、『思うは招く』は、過日全国校長協会総会で講演をされた株式会社植松電機専務取締役の植松 努氏の講演の演題です。カムイロケット、あるいは、「下町ロケット」という小説やドラマのモデルとなった会社と言えば思い当たる方も多いかと思います。その講演の中で、企業が真の意味で人材を求めていると話されていました。“まじめで素直”だけでは、安価で長時間働くロボットに勝てないのだと。そして、今こそ、「やったことがないことをやりたがり、あきらめず、工夫する」人材が必要なのだと。更には、とても耳の痛かった言葉でしたが、「どーせ無理」という言葉がどれ程子どもの可能性を奪っているかということでした。大人が発する場合でも、あるいは、子ども同士で、あるいは自分に対してでも、その一言がどれ程人間の可能性を奪うかを力説されていました。90分を超える講演でしたが、私が今までに聞いたものの中で、1、2を争う見事な講演でした。

余りにも印象深かったので、ウェブで検索するとすぐにYouTubeの動画が見つかりました。そして、同じ思いをした人が全国にたくさんいることを知りました。同時に、同じ

テーマで全国を飛び歩いている大変忙しい方だということもわかりました。同窓会の皆様にも、お時間があれば是非動画を御覧いただきたいと思います。感動すること請け合いです。そして、お話をしてくださった植松努氏の生き様が、まさに、大高の校歌にある「夷隅は遠く世界を目指す」に繋がっていると直感したのです。だからこそ、大高を大切にしなければと思い新たにいたしました。

昨年も書かせていただきましたが、本校は、学年4学級規模の、高等学校としては小規模校ではありますが、その校風は紛れもなく県下に誇る事ができるものと確信しています。しかし、現状に甘んじて何もしなければ、この過疎化の波を乗り切れません。学校を取り巻くあらゆる要素を分析し、本校の持つ強みを最大限に活用しつつ、課題を一つ一つ丁寧に解決していく必要があります。保護者の信頼を獲得し、地域社会や本校を支えてくれる関係諸機関と一層の連携を深め、本校の発展を目指したいと思います。そして、一人でも多くの中学生や保護者が、「地域の人材は地域で育てる」ことの良さに気付くことを願っています。

最後になりますが、本校同窓会がますます発展し、今後も本校から多くの有為な人材が輩出されることを祈念申し上げて御挨拶とさせていただきます。

同窓生の声

母校を訪ねて、「故きを温ねて新しきを知る」

永井 壽子(昭45高)



昨年、10月に行われた同窓会総会に出席して、多くの方が大多喜高校の存続を心配していることを知りました。私は、3月下旬にこの思いを胸に、母校を訪ねました。学校の坂を上り、左に大手門を見ながら、目の前には桜の花に彩られた天守閣が堂々とした姿を見せてくれています。歴史を物語る大井戸、2棟の体育館、同窓会館、そこに大多喜中学校、及び大多喜高等学校の威厳ある歴史を感じて、絶対に大多喜高校は無くなることはないとの強い思いを抱きました。その後、校長先生にお会いし、お話をさせていただきました。先生は大多喜高校生の素直さと真面目さ、物事に熱心に取り組む姿勢は他の学校の生徒には見られないこと、先生方の日々の教育に取り組む熱心さをお話しされました。この言葉からも大多喜高校が無くなることはないと再度確信を抱きました。私は、皆さんが愛してやまない大多喜高校の歴史を知りたくなり、百年史を見てみると、大中ストライキ事件に目が留まりました。この事件は当時大きな事件として新聞にも載り世間を騒がせていたようです。当時、私の父も大多喜中学校に在籍していたことを思いながら読んでいくと、父が話してくれた中学校時代のことの中に出てきていた人の名前を目にし、父とこの事件との関係を知りました。事件は大正15年に第七代校長として手塚岸衛先生が赴任したことから始まりました。先生は純朴な大多喜中学校に新しい風を吹き込む為に、総理大臣若槻礼次郎の辞令により着任しました。総理大臣辞令は先進的な試みとして、山間純朴な大多喜中学校へ手塚先生を送り自由教育を試みるものであったのです。当然千葉県知事の期待も大きかったようです。先生の人となりは非常に情熱的で、意欲的に教育にあたり革新的に物事を進める方であったようです。先生

は大中に来られる前は、千葉師範学校附属小学校校主事として、自由教育を推進しておられ、その名は全国に知られ、教育現場にも多くの参観者があったようです。当時は革新的政治が進められていた反面、軍部からの規制も多く、いくら総理大臣の意向だからと言ってその通りに物事が進まない時代でもあったようです。そのような社会的背景の中で、大中でも自由教育が実施されていきました。「教育は人間性の完成にあるとし、自由とは自然自由、或いは放任自由ではなく、良心の命ずるところに従って行動することである」とし、自由真義を生徒に語りながら、校長自ら総指揮をとり生徒達自らの自治による教育活動が進められていきました。また、情操教育の重要性から音楽教育を積極的に取り入れ、先生のヨーロッパでの生活の経験から、英語教育にも熱心で授業の始まり終わりの挨拶を英語で行ったりもしていたようです。しかし、手塚先生が推進した自由教育を当時の軍部は認めなかった。手塚先生排斥運動が起こったのです。その発端は軍事教練助教官が、ある小学校校長を父に持つ生徒に「今のおまえの成績では進学できない」と話したのが切っ掛けで、自由教育批判が始まりました。このころから自由教育に対しての反対が始め、大中ストライキ事件へと発展していくのです。校内には「自由教育では国家はダメになる」との雰囲気広がり、生徒達の暴動が起こり、4年生の5名と5年生が手塚派と思われリンチを受けることとなってしまいます。ついに手塚校長は依願退職を決意し校長の職を辞しました。大多喜中学校を去るにあたり手塚校長は血涙をふるって自らの腕を打ち、自らの未熟と未完の自由教育を悲しんで「真理は必ず将来輝かしい光明を持って世人に認められることを信ずる」と結び、大多喜中学校を去って行ったのです。その後、手塚先生は東京九品仏に自由が丘学園を創立し自由教育を進められました。予想以上の盛況に千葉県知事も援助の手を差し延べたとのことです。手塚先生は持病の悪化のために昭和11年10月にこの世を去りました。そののち、自由が丘学園は売却され、トモエ学園となり新たな私学となりまし

た。その学校にトットちゃんこと黒柳徹子さんが学んだことを知り、人の繋がりや、教育の重要性や責任等を考えさせられました。現在、千葉大学付属幼稚園、小学校、中学校は手塚先生が当時推進していた自由教育の理念を受け継ぎ、教育の柱としての教育活動が行われています。先日、偶然にも千葉大学付属中学校で学んだという市議会議員の方とお会いする機会がありました。早速、千葉大学と手塚先生の関係についてお話をさせていただきましたところ、「現在の自分があるのは、附属中学校時代の教育のおかげです」との言葉が返ってきました。当時の附属中学校では、生徒同士で議論し決定し実行する生徒自身による自治活動が行われていたとのことでした。大正時代に始まった自由教育の理念が今も千葉大学付属で絶えることなく引き継がれていること、そしてその教育を受けたことに誇りを持ち感謝している方との出会いに「不易流行」の四文字を思い出し、時代は変わり世の中は変化しても変わらないものを求めることが教育の礎であると身を以て知らされました。生徒達の可能性を信じ思い半ばで去った手塚先生の思いに触れ、教育の原点を教えられた気がいたします。今回大多喜高校の歴史を振り返る機会を得たこ

とで、かつて総理大臣や千葉県知事から新しい日本を背負う人材の育成を期待された大多喜中学校の校風を受け継ぐ大多喜高等学校の人材育成に大きな期待を持った次第です。「故きを温ねて、新しきを知る」新しい時代の大多喜高校の躍進を期待いたします。

追って書き足します。帰りに寄った老舗のお菓子屋さんで話から大多喜高校は大多喜町には必要な学校であること、今まで大多喜高校から日本を支えるような多くの人材を世に送り出していったこと、など期待する思いが伝わってきました。一人ではなかなか成し遂げられないことも力を結集することにより大きな力となります。私も、地域の皆さん、学校、同窓会と協力しながら新たな大多喜高校の未来再生の力になりたいと強く思いました。

現職 千葉県高等学校ユネスコスクール連絡協議会会長
千葉ユネスコ協会理事
昭和45年3月 千葉県立大多喜高等学校卒業
平成25年3月 千葉県立佐倉南高等学校校長を退職

夢の形は変わったけれど・・

掛須 秀一(昭50高)



高校3年間は、部活のサッカーに明け暮れていた。

将来の夢と言っても、漠然と、「映画関係」の仕事に就きたいとしか考えていなかった。

その夢を叶える手段も思いつかず、相談する人も無く、ただ映画を観たり、本や、専門雑誌を読んだりするしか無く、「まあ、とりあえず大学でも行って、そこで考えればいいか・・」ぐらいの気持ちで受験を目指していた。

志望校を決める頃、「日大芸術学部」の存在を知り、その中の映画学科を目標とした。試験は細かくコースが分かれていて、その中の最難関コース「監督」コースを選択した。全く裏づけの無い自信なのに、他の大学受験をせず、当たり前のことながら見事に不合格!

運命の悪戯はこんなところから始まる。

その年、今村昌平監督が、映画の専門学校を開校したのだった!

「横浜映画専門学校」現在の「日本映画大学」である。

日大の受験日が早かったため、早期募集に間に合い、無事入学となった。

自分が高校を卒業した1975年、大手5社と呼ばれていた「東宝」「東映」「松竹」「大映」「日活」が宣伝部の一部を除いて全ての新入社員の採用を取りやめた頃だった。大学を卒業してどこかの撮影所に入社しようと言うシナリオは崩れたのだ。

そんな大学を卒業した連中がうようよいる様な学校であった。

千葉の田舎の高校を卒業したガキが、ゴダールだのトリフォードの芸術性の高いヨーロッパ映画を語られても、全く会話にならなかった。TUTAYAがない時代である、ましてHULUだって・・

とにかく足を使ってたくさん映画を見る!手当たり次第、ためになるかならないか、面白い面白くないか、そんなの全く度外視して、とにかく勧められた映画を見まくった。

半年もせず会話についていける様になり、部活で鍛えた根性と体力、それと、酒の強さと腕っぷし(過去のことです。良い

子は真似しない様に)

おかげで、年上だらけの同期生の中で一番目立つ存在になっていた。

映画は色々な職種で構成されている。企画、シナリオ、監督、技術スタッフ、役者、配給、宣伝など、横浜映画専門学校は現在もそうだが監督、脚本、技術スタッフ、役者の育成に力を注いでいる。実習中心の授業であらゆる職種を経験した、監督は花形な職種だが脚本が書けなくてはならない。その上当時の映画界に於いて、助監督からのスタートは監督になるまでに10年以上かかる職業だった。まして映画業界大不況時代である。役者を目指すほど自惚れてはいないので、実習の経験の中で一番楽しかった技術スタッフを目標にした。

とは言っても、とりあえず技術職に就いて、最終的には監督を目指そうと考えたのだった。

ある日脚本の先生に「監督を目指すにはどんな勉強すれば良いのか?」と質問したところ、「シナリオをたくさん読むことだ」と言われ、脚本をたくさん読める職業とは何だと考えた。それはテレビだった。

テレビのシリーズを一番たくさん手がけられる職種が編集だった。

そんなことから編集の道に進み、たまたま就いた師匠が実写もアニメも手がけていたのでたくさんの作品に参加することができたのだった。

当時アニメに関しては全く興味が無かったが、最初の仕事から、高畑勲、宮崎駿監督らと仕事することができ、その後の人生に大きく影響を受けた。

5年ほど助手を務めた頃、突然海外で撮影する映画のB班のチーフ助監督の話が舞い込んできた。ようやく編集者としての実力が認められ始めてきた頃であったが、このチャンスを逃したら、監督への道がなくなるのでは無いかと思い、思い切って退職したのだった。

しかしこれが大失敗!その映画の企画が流れたのである。

師匠の元へ戻るわけにもいかず、約1年無職の状態。拾う神ありで、東京ムービー(現在のTMS)に在籍することとなった。実写映画の夢を捨てきれず、当時同世代の監督を目指す、いわゆる自主制作映画に参加することになった。自主制作映画は全く金にはならなかったが、基本アニメーションで稼いでいたので生活は割と良い方だった。

1990年にそれまで別々に仕事をしてきた同業の編集者と共同で有限会社ジェイフィルムを設立した。設立時は8人で、アニメーションを中心に多数の作品を効率よく作業をする体制ができていった。

実写作品は趣味として採算の合わない作品でも進んで引き受けた。やがてWOWOWの実験的作品シリーズ「J・MOVIE・WORS」全作品を手がけ、実写映画編集者としての名を一躍有名にしたのだ。1994年それまでの編集技術を塗り替える全く新しいシステムがアメリカから日本に入って来た。

デジタル・ノンリニア編集である。いまでは当たり前になっている技術だが、当時自分が最初に導入した頃は、まるで鉄砲伝来の様な有様で、業界のあらゆるパートからバッシングの嵐だった。

しかし1996年に朝日新聞社からデジタル エンターテインメント大賞を受賞すると、日本各地からの講演依頼が殺到し、マスコミにも何度も取り上げられ、一挙にデジタル化が進んだのである。

数多くの作品を手がけ、著名な監督とも仕事をし、現在も新しい技術の先駆けとなっているのだが、一番みじかな両親が多分理解していないのだ。数年前NHKから大河ドラマ「八重

の桜」の編集を依頼され報告したところ、どんな作品の話をしてでも何のリアクションもなかった両親、親戚が、とても喜んでことで何故か気が抜けてしまった。

ここ何年かNHKからの依頼で地方局制作のドラマに参加し新人の監督のサポートとして現場と編集をすることがあり、彼らに演出とは何かと教えている自分があり、監督経験が無いのに自分はもう指導者側に立っているのを感じ、道筋は違ったが結局同じところにたどり着いた気がしたのだ。

現在は社員も16人になり、アニメーションも20数作品に増え、実写もテレビドラマや映画を複数手がけている。タイトルにジェイフィルムの名前を見かけたら応援してください。

昭和50年3月大多喜高校卒業。

アニメ、ドキュメント、ドラマ、自主映画などさまざまな分野の編集を手がける。

ジェイ・フィルムを設立、日本映画業界としては初めてコンピューターを使った「ノンリニア編集」に着手。平成8年に「朝日デジタルエンターテインメント大賞 シアター部門/個人賞」を受賞。

高校時代を振り返り…

現職 勝浦市議会議員

株式会社ブルーウェブ代表取締役 戸坂 健一 (平7高)



平成28年度同窓会会報の発行にあたり、寄稿の機会を頂いたことに感謝致しますとともに、母校のために幾許かの貢献が出来ることを心から光栄に思います。大多喜高校の自然豊かな環境、大らかな校風と、明るく朗らかな仲間たち、優しい先生方、そしてそこで学んだ多くのことを、今でも懐かしく思い出します。

当時は英語科の前身である英語コースが出来たばかりで、私も志願して英語コースの第一期生となりました。クラス44名中、男子生徒は6名のみという特殊な環境ではありましたが、皆伸び伸びと学生生活を満喫していました。

また高校時代は山岳部、生徒会に所属し、生徒会長を務めさせて頂きました。しかし、私自身優秀な生徒だったというわけではなく、むしろ成績はクラスでも最下位。テストでは赤点の連続、補習の常連でもありました。そんな自分が生徒会長になる、ということで周囲からはずいぶん心配もされましたが、なんとか最後まで勤め上げることができたのも、自由と自主協働を尊ぶ大多喜高校の校風のお陰でありました。

いわば落ちこぼれの一人であった自分が、生徒会長になることには批判や懸念はあったと思います。しかし、担任はじめ校長先生、教頭先生、当時の先生方は皆「よしやってみろ」と笑顔で背中を押してくださいました。それがどんなに有難く、嬉しかったことか。また生徒会長となっても、先生方は私だけでなく生徒会メンバー各々の意見や理念を尊重し、本当に文字通り「自由に」生徒会活動を任せてくださいました。結果、高校としてテレビ番組への出場や、学園祭での料理コンテストの実施など、ユニークな活動を行うことが出来ました。

今思えば、顧問の牧野先生はじめ当時の先生方には大変なご迷惑をおかけしたと反省しきりですが、生徒の破天荒な

提案や行動を頭ごなしに否定することなく、まずはやらせてみる。どんな生徒にも偏見を抱くことなく極めて公正に対応する。まさに大中至正の校訓の通り、自由で闊達な校風が確かにそこにはありました。

現在私は勝浦市において市議会議員として働いています。大変なこともあります、充実した日々を送っています。

政治家として働くことは私の夢でした。政治家になって、人々の心に誇りと矜持を取り戻したい。地元勝浦だけでなく、日本という国を明るく元気に誇れる国にしたい、という想いは、高校生の頃にすでに抱いていました。

高校在学時、クラスの中での主張発表において将来の夢は何かと問われた際に「政治家になる」と答えた時、笑わずしっかりと受け止めてくださった先生がいたからこそ、今の自分があります。成績不振の落ちこぼれであった自分が「大学受験をしたい」といった時にも、進路指導の先生はまっすぐな目で「頑張れ」と言ってくださいました。

現代社会の中で、他者の夢を認めて応援してくれる大人がどれだけ少ないことか。もしあの時、先生が「お前では政治家は無理だ」「お前の成績では大学は無理だ」と、ある意味至極真っ当なお答えをされていたら、今の私は存在しなかったかも知れません。

夢をあきらめない。他人の夢を笑わない。他者の個性を尊重し、どんな生き方も認めていく、という考え方は、まさに大多喜高校での3年間を通して学んだものです。大多喜高校での3年間があったからこそ、私は夢を諦めず今日まで歩んで来ることが出来ました。

大中至正。不偏不党で極めて公正であること。偏らぬ真っ直ぐな心で世の中に挑んでいくこと。それが我が大多喜高校の校訓です。大多喜高校で学ぶ皆さんにおかれましては、高い志と大きな夢を持ち、他者を思いやる心を忘れず、勉学に励んでいただきたいと思えます。常識や既存の理論に捉われることなく、自分の心と直感を信じる勇氣を持って行動してください。大多喜高校には、それを許してくれるだけの大きな器があります。夢に羽ばたく在校生の皆さんのご活躍を心から祈念しております。

支部・OB会だより

▶▶ 大多喜支部

大多喜支部長の三上幸男です。何卒よろしくお願ひ申し上げます。平成28年5月27日(金曜日)大多喜中央公民館にて、平成28年度千葉県立大多喜高等学校大多喜支部総会を開催し、平成28年度大多喜支部の活動計画が承認されましたので報告申し上げます。平成28年6月12日(日曜日)いすみ鉄道友の会の草刈り作業、9月いすみ鉄道友の会草刈り作業(未定)、28年10月 第13回親睦ゴルフ大会(未定)を開催いたします。今年度新たに大多喜高校緑化美化事業に10万円予算計上いたしました。緑化美化事業につきましては、学校の要望に応え進めてまいります。



各事業につきまして支部を超え、同窓生皆様方の参加を心よりお待ちしております。

さて、大多喜高等学校は平成28年度 160人生徒募集に対して152名と定員われとなり大多喜高等学校は統廃合の危機対策する必要がありますと提案がありました。

猿田同窓会長(勝浦市長)様から千葉県立勝浦水産高等学校の統合体験談を参考に大多喜高等学校の危機対策について意見及び提案されました。

国公立大学進学率の向上、優秀な先生の転入、魅力ある学校等の提案がされました。地元大多喜町も伝統ある大多喜高等学校の存続に向けた支援推進委員会会議を6月20日に開催されることになりました。

大多喜高等学校の最大の危機を乗り越えるため、同窓生の皆様のご支援とご協力を何卒よろしくお願ひ申し上げます。

お城まつりのご案内をさせていただきます。大河ドラマ「真田丸」本多忠勝役で出演しています藤岡弘氏を第42回お城まつりに本多忠勝役で出演依頼していますので、藤岡弘氏が本多忠勝役で馬上から勝鬨を挙げるサプライズを期待して、9月25日(日曜日)開催されますお城まつりに同窓生の皆様方のお越しを心からお待ちしております。

▶▶ 女子高支部

女子高支部では5月22日(日)に大多喜高校会議室にて山岸教頭先生をはじめ、藤岡事務長、竹山同窓会事務局長、鈴木先生をお迎えし、会員34名の出席を得て総会を開催しました。

山岸教頭先生より初めて外房地区に来られ、大多喜高校の状況も知らなかったが、女子高歴代校長の中に高村校長先生の名前を見て縁を感じているとのこと。学校の状況について、学校環境を整え魅力ある学校作りをしている。勉強、部活動に一生懸命取り組みがなっている学校。引き続き皆様にご支援をいただきながらがんばってゆきたいとのお話がありました。

事務局竹山先生からは、入学選抜、進路指導、部活動の様子等学校の現況について報告がありました。

総会では、27年度事業報告、決算の承認、28年度事業計画案、予算案、役員改選について審議され原案どおり承認されました。また女子高支部の今後の在り方について、懇親会形式で実施することが提案されました。午後のアトラクションでは大多喜高校マンドリンギター部の生徒さんに演奏をお願いしました。マンドリンギター列車をはじめ様々な場で演奏活動を行っているとのこと。改めて間近かに聞かせていただき美しい音色にうっとり耳を傾けました。クラシック、演歌、なつかしい曲、新しい曲、アンコールも含めとても気持ちのよいひとときを過ごしました。



千葉県立大多喜高等学校同窓会 女子高支部 第13回総会 平成28年5月22日

▶▶ 大原支部

平成28年度大原支部総会の日時が決定しましたのでお知らせいたします。

日時 10月15日(土) 13時30分～

場所 大原文化センター 1階 大会議室

※準備等の都合上、出席される場合は下記にご連絡いただけますようお願いいたします。

連絡先 090-7566-0351 新井 洋一(昭45高)

▶▶ サッカー一部OB会

第15回大多喜町近隣少年サッカー大会

大多喜高校サッカー一部OB会主催による第15回大多喜町近隣少年サッカー大会が、12月13日(日)大多喜町海洋センター多目的広場において開催されました。

あいにくの少雨に見舞われた大会となりましたが夷隅郡市内から15チームが参加し、日ごろの練習の成果を発揮した熱戦が繰り広げられました。

過去の大会で5回優勝している王者、大原FC(昨年優勝)が2回戦で敗退し、最近の大会でなかなか上位に勝ち進めなかった大多喜小FCや勝浦FC、それに国吉FC、東小FCが粘り強く勝ち進み、ベスト4に駒を進めました。

降雨が一段と激しさを増す中、選手の健康を第一に考え準決勝からの大会は延期することとなりました。

一週間後、晴天に恵まれた19日(土)、会場を大多喜小学校のグラウンドに移し準決勝から大会が再開され、4チーム激戦の結果、

大多喜小FCが国吉FCにPK戦を制し、7年ぶり3度目の優勝を飾りました。

3校が統合して発足した大多喜小FCは、選手の層も厚く、チームプレーで勝利しました。

応援に駆け付けた保護者やサッカーファンから終始熱い声援が送られていました。



【参加チーム】

大原FC・西小イレブン・FC千町・大多喜小FC・古沢小学校・御宿FC・中根ORANGEWAVE・勝浦FC・東小FC・FC中川・豊浜小学校・長者小学校・国吉FC・東海FC・清海上野クラブ

▶▶ 経友会活動報告

平成28年6月7日、レイクウッド大多喜CCを会場に、第65回経友会ゴルフコンペを開催しました。参加者は、女性3名を含む24名でした。

コンペ後の懇親会の席上、引田会長から同窓会事務局担当者に、後輩の活躍に役立ててもらおう趣旨で3万円を手交しました。有効に活用してください。

経友会は、主として千葉地区周辺に居住する同窓生が、母校の支援と会員相互の親睦を目的に発足しましたが、現在は同窓生であればどなたでも行事等への参加を歓迎いたします。現在は、総会と年2回(春・秋開催)のゴルフコンペを実施しております。コンペは、開催毎に母校近くのゴルフ場を会場に行われております。

経友会役員

会長 引田紘一 (S33年度卒)

幹事 秋田幸一 (S46年度卒)

幹事 太田雅彦 (S58年度卒)

経友会の皆様より3万円の寄付をいただきました。
ありがとうございました。

平成26年度 同窓会決算報告書

● 一般会計 ●

1 収入支出対照表

収入総額	支出総額	残 額	説 明
5,718,622円	2,424,310円	3,294,312円	翌年度へ繰越

2 収入の部

科 目	予 算 額	決 算 額	比 較		説 明
			増	減	
繰越金	3,467,341円	3,467,341円	0円	0円	平成25年度繰越金
会 費	0円	0円	0円	0円	
入会金	795,000円	785,000円	0円	10,000円	5,000円×157名
賛助金	2,000,000円	1,464,880円	0円	535,120円	同窓会報発行賛助金
繰入金	0円	0円	0円	0円	
雑収入	500円	1,401円	901円	0円	寄付金・預金利息
計	6,262,841円	5,718,622円	901円	545,120円	

3 支出の部

科 目	予 算 額	決 算 額	比 較		説 明
			増	減	
会議費	250,000円	88,033円	0円	161,967円	総会補助、役員会費
運営費	150,000円	49,562円	0円	100,438円	事務費、通信費
活動費	600,000円	418,960円	0円	181,040円	支部活動費、旅費等
広報費	2,000,000円	1,867,755円	0円	132,245円	同窓会報発行代
雑 費	80,000円	0円	0円	80,000円	慶弔費
予備費	3,182,841円	0円	0円	3,182,841円	
計	6,262,841円	2,424,310円	0円	3,838,531円	

● 特別会計 ●

1 収入支出対照表

収入総額	支出総額	残 額	説 明
1,794,798円	0円	1,794,798円	翌年度へ繰越

2 収入の部

科 目	予 算 額	決 算 額	比較(減△)	説 明
繰越金	1,794,512円	1,794,512円	0円	平成25年度繰越金
雑収入	500円	286円	△214円	預金利息
計	1,795,012円	1,794,798円	△214円	

3 支出の部

科 目	予 算 額	決 算 額	比較(減△)	説 明
繰出金	0円	0円	0円	
予備費	1,795,012円	0円	1,795,012円	
計	1,795,012円	0円	1,795,012円	

監 査 報 告 書

諸帳簿並びに証拠書類を精査したところ、適正であることを認めます。

平成 27 年 9 月 4 日

監 事 酒 井 太 門 ⑩
渡 辺 雅 文 ⑩

部活動状況

平成28年 第40回全国高等学校総合文化祭

美術・工芸部門 狩野 真由 (3C) (茂原中出身)
小高まりや (3C) (大多喜中出身)

	男	女	合計
柔 道	16	2	18
剣 道	14	11	25
陸 上 競 技	21	23	44
弓 道	23	23	46
野 球	39	7	46
ソフトテニス	14	13	27
バレーボール	8	16	24
バスケットボール	7	19	26
サ ッ カ ー	23	7	30
卓 球	11	7	18
生 物	12	0	12
美 術	6	13	19
書 道	0	16	16
マンドリン・ギター	4	20	24
演 劇	3	10	13
英 語	3	4	7
吹 奏 楽	2	24	26
茶 道	2	17	19
華 道	0	0	0



卓球部

千葉県高等学校総合体育大会
卓球女子シングルス 第6位
石井 優佳 (3A)(南中出身)
全国高等学校総合体育大会
(インターハイ) 出場



剣道部

H28年度 関東高等学校
剣道大会 千葉県予選
女子団体 第4位
関東高等学校剣道大会出場



柔道部

H28年度 関東高等学校
柔道大会 千葉県予選
第5位 (ベスト8)
関東高等学校柔道大会
出場



陸上部

千葉県高等学校陸上競技大会 女子800m
第4位
渡邊優女花 (3C)
(国吉中出身) 2:13.79
関東高等学校陸上競技
大会出場



平成27年度進路状況報告 進路指導主事 佐藤 幸生

平成27年度進路指導を振り返る

1学年4クラスの高校として安定してきた大多喜高校。平成27年度もこの規模の高校としては充実した進路実績を残した。大学進学が82名、短大進学が7名、専門学校進学が47名、就職が民間で9名、公務員が7名。ここ1、2年微妙に就職希望者が増えているが、民間では千葉銀行、JR東日本、日本郵便他、公務員では千葉県職員、大多喜町役場、いすみ市役所、千葉県警など納得のいく結果を得ている。ただ、気になるのは大学受験において一般受験で挑戦する生徒が増えないことだ。ここ数年多くがAO入試と推薦入試で進学しており、一般受験に挑戦したのは昨年度の場合30名ほどで、結果として国公立大学進学者も数名に留まっている。昨年度の場合、公立大学合格者は高崎経済大(1)と千葉県立保健医療大(2)で3名いたが、国立大学については受験者そのものがいなかった。一般受験そして国公立大学受験に向けた新たな取り組みが必要である。

(9) 進路報告会 3月 卒業生の体験談ほか
千葉県立保健医療大、東京理科大、中央大、東邦大、武蔵野美術大、玉川大、植草学園大、順天堂大、明治大、明治学院大、千葉経済短期大、八千代リハビリテーション学院、JR東日本、千葉銀行、夷隅郡市町村圏事務組合、いすみ市、日宝化学

平成27年度卒業生主な進学先

【四年制大学】

千葉県立保健医療大、明治大、中央大、法政大、学習院大、東京理科大、日本大、東洋大、駒澤大、専修大、國學院大、順天堂大、東邦大、国士舘大、玉川大、神田外語大、国際医療福祉大、文教大、聖徳大学、共立女子大、和洋女子大、女子栄養大、実践女子大、千葉工業大、工学院大、帝京平成大、淑徳大、武蔵野美術大、帝京大、城西国際大、城西大、杏林大、千葉経済大学、植草学園大学、他

【短期大学】

千葉敬愛短大、植草学園短大、千葉経済短大、千葉明德短大

【専門学校】

千葉中央看護、千葉防災看護、鶴舞看護、中央医療技術、千葉医療福祉、国際医療福祉、八千代リハビリテーション、日本工学院、日本外国語、船橋情報ビジネス、千葉女子他

【公務員・民間就職】

千葉県職員、大多喜町役場、いすみ市役所、千葉県警、夷隅郡市町村圏事務組合、千葉銀行、JR東日本、日本郵便、日宝化学株式会社

昨年度の本校の進路指導の概要

- (1) 進路説明会〈3年〉4月 外部講師等による分野別(大学・短大・専門学校・就職など)進路説明
- (2) 夏期・冬期・実力養成講座授業、進学課外授業
- (3) 1年大学見学会(バス) 東京理科大・國學院大7月
- (4) 看護体験・インターンシップ 7・8・11月 鶴舞看護専門学校、いすみ医療センター、千葉県がんセンター、君塚病院、いすみ鉄道アテンダント体験他
- (5) 大学出張講義体験会 11月 神田外語大・東邦大・成城大・淑徳大・駒澤大・北里大・文教大・城西国際大・国際武道大・千葉敬愛短期大
- (6) 保護者進路説明会 11月 リクルート 高野 亜季子氏 「日々変わりゆく社会の中で、子どもたちはどう生き抜くのか ~そして親が今できること」
- (7) 進路講演会 12月 リクルート 坂本 智子氏 「『やりがい』は、「好き!」から見つけよう」
- (8) 2年進路説明会〈2年〉12月 大学・短大・専門・民間就職・公務員の進路説明

◇平成27年度卒業生進路状況

種別 性別	大学		短大		専門 学校	就職		浪人 ・他	合計
	国公立	私立	国公立	私立		民間	公務員		
男	0	36	0	0	21	5	6	5	73
女	2	44	0	7	26	4	1	5	89
計	2	80	0	7	47	9	7	10	162

事務局だよ!

●平成27年 年度末人事異動

《退任された先生方》

鎌田 健 [保健体育] 平成27より1年間
 森 章 [美術] 平成27より1年間 ※非常勤講師

《転任された先生方》

林 晃喜 [教頭] 平成24より4年間 ※木更津高等学校副校長へ
 安田 英俊 [事務長] 平成25より3年間 ※市原八幡高等学校事務長へ
 海保 仁志 [国語] 平成18より10年間 ※成東高等学校へ
 愛甲 雅彦 [地歴・公民] 平成27より1年間 ※市原八幡高等学校へ再任用
 酒井 利彦 [地歴・公民] 平成19より9年間 ※大原高等学校へ
 林 朋美 [数学] 平成16より12年間 ※茂原高等学校へ
 菅根 彰宏 [数学] 平成23より5年間 ※長生高等学校へ
 庄司 宏 [理科] 平成26より2年間 ※安房高等学校へ再任用
 千葉 静子 [英語] 平成18より10年間 ※市原緑高等学校へ
 遠藤 明子 [英語] 平成20より8年間 ※長生高等学校へ

《転入された先生方》

山岸 幸雄 [教頭] 姉崎高等学校より
 藤岡貴美子 [事務長] 君津青葉高等学校より
 高橋 功 [国語] 大原高等学校より ※再任用
 大平 源治 [地歴・公民] 茂原高等学校より ※再任用 昭42高(26回)
 齊藤 朋泰 [地歴・公民] ※新規採用
 久保木 学 [数学] 大原高等学校より
 大河原一恵 [数学] 市立千葉高等学校より ※H2高(42回)
 岩名地 総 [理科] 市原緑高等学校より
 田中 善宏 [保健体育] 東金高等学校より ※再任用
 小林 秀徳 [保健体育] ※新規採用
 高梨みどり [英語] 長狭高等学校より
 森 裕香 [英語] 大原高等学校より
 早川 隆雄 [数学] ※非常勤講師で継続
 村松 久子 [家庭] ※非常勤講師で継続

●異動連絡のお願い

住所等の異動の折には郵便はがきなどで同窓会事務局にご連絡ください。同窓会関係の郵便物が宛先不明で返送されますと会員名簿上での住所は空欄となります。同窓会事務局では少しでも正確な情報を把握しておきたいと考えておりますので、ご協力よろしくお願い致します。

●原稿募集のお願い

同期会・クラス会・OB会等を開催されましたら、会報に掲載しますので、ご連絡をお願い致します。また、同窓生の皆様からの寄稿をお待ちしています。あるいは、原稿をお願いできる方をご推薦ください。

●お願い

同窓会報の『同窓生の声』に寄稿いただける方がいらっしゃいましたら、同窓会事務局へご連絡下さい。
 千葉県夷隅郡大多喜町大多喜481 TEL 0470-82-2621
 千葉県立大多喜高等学校同窓会

●振り込め詐欺被害にご注意ください

勝浦警察署から担当者が来校され、同窓生の親御さん、特に50歳から70歳前後の方が被害に遭われているとのことでした。

●個人情報について

個人情報についてですが、同窓会員の情報は(株)サルトにて一括管理されています。これは、会報の発行や名簿作成のためです。それ以外の使用は一切行っておりませんのでご承知ください。

●役員名簿

会 長	猿田 寿男 (昭42高)	
副 会 長	福山 悦男 (昭29高)	
	近藤 万芳 (昭32高)	
	太田 洋 (昭41高)	
	加藤 茂範 (昭44高)	
	櫻井 榮子 (昭29女)	
	稲村千代子 (昭35女)	
監 事 (会計監査)	酒井 太門 (昭41高)	
	渡邊 雅文 (昭43高)	
顧 問	小高 芳男 (昭22中)	
	齋藤 萬祐 (昭32高)	
	山口 登 (昭37高)	
支 部 長	大多喜	三上 幸男 (昭40高)
	大 原	不在
	勝 浦	猿田 寿男 (昭42高)
	茂 原	村杉 仁 (昭31高)
	千 葉 (千葉大高会)	福山 悦男 (昭29高)
	岬	麻生 学 (昭42高)
	女子高	中村美智子 (昭49女)

【支部長は各支部で選出いただいています。】

平成28年度 同窓会総会・懇親会のお知らせ

日時 10月30日(日) 午前11時20分～

場所 勝浦ホテル三日月

会費 男性 8,000円 女性 5,000円

お問い合わせ、お申し込みは、
下記までお願い致します。

TEL 0470-82-2621

(大多喜高校内・同窓会事務局)

TOPICS

平成27年度

・渡邊伊三郎様(昭24卒)より、ご自身の経験を踏まえ、まとめられた本を寄付していただきました。ありがとうございました。

・本校による、いすみ鉄道への支援活動の取り組みがテレビやラジオ、雑誌など多くのメディアに取り上げられました。今後も生徒会やいすみ鉄道対策委員会を中心に積極的に取り組んでいきます。

平成28年度

・経友会の皆様より3万円の寄付をいただきました。ありがとうございました。